

いろは順古頭付

## 【凡例】

- 一、国立能楽堂蔵『いろは順古頭付』の翻刻である。
- 一、詞章は「」で示し、ゴマは付記しない。
- 一、ミセケチの文は読めるところは本来の位置に翻刻し、訂正分はその下に記す。
- 一、□は虫喰い、難読文字及び抹消により元の文字が読めないことを示す。推定は「」。
- 一、右横に挿入された小文字はポイントを下げて右側に記す（左横に記された場合も右に記し、（左）と付記する。両側にある場合は両側に）。ただし、内容に大きく関わる場合はポイントを下げずに記し、挿入だとわかるように文頭に\*を付した。
- 一、本書の注は傍注にとどまらず、余白に無秩序に書きこまれているが、注の改行は無視している。ただし108頁（鉢木）は本文に相当する長文の記述であるため原態がわかるように翻刻した。
- 一、欠葉の後、途中から記述が始まり、曲名の表記がない場合は「」に入れて曲名を示す。
- 一、その他、注記などは「」で示す。
- 一、本文中にはところどころ朱で句点が表示されているが、それとは無関係に文の句切りに句点、詞章の句切りに読点を付けた。
- 一、本資料の翻刻・校訂は深澤希望・中司由起子・山中玲子・森田都紀・高桑いづみが、解題は高桑が担当した。

## 【翻刻】

## ▲ ㄨいつ、序

一 ㄨ初僧ノなのり。「きの在常の常なき世、いもせをかけてとふらはん、く」ひしき女ノ次第。「猶、なりひらの御事、御物語候へ」くり二成。「夢待そへてかりまくら、苔のむしろにふしにけり、く」ㄨひしき一セイ。僧ノ音取吹也。「ゆきをめくらすはなの袖」ㄨ序ノ舞。「月ソさやケキ、く」爰ニテかける事も在。とうへし。

## ▲ ㄨはころも

一 ㄨ初ひしき一セイ。むすふ音取也。「あつまあそひノするかまい、く此時や初め成らん」ㄨ僧の者き在。くり二成也。「東あそびノ舞の曲」ㄨ序舞也。「なひくも返も、舞のそて」ㄨ天女ノはの舞ㄨ也。くりの吹様たかね一ツ。ゆり吹也。

## ▲ ㄨはうしやう川 序ノ序

一 ㄨ初大臣次第。道行在。せりふ聞合ひしき一セイ有。二ノ句在。同すへに「けにもいけるをはなツなる、御ちかひあらたなりけり」と謡て「なをくはうしやう川のいハレ、御物語候へ」と謡てくり二成也。「たんしやうさしてあかりけり、く」相ハ常のことし。「ミヤこに帰りしんちよくを、く」ことくさうしあくへし、といへは「お山も御かくの、きこへていきやうくんする、けにあらたなるきとくかな、く」と謡て出る。「さやけきかけハ処から」ㄨしんの序打上也。謡出ゝす。「扱ハ神代も和歌をあげ。く」と謡

## ▲ ㄨはちの木

一 ㄨ初西明寺次第。道行有。すへに「い、すてて出舟の、ともになこりやおしむらん、く」かたひしき吹也。相ノ者出る。大ゆり吹てよし。扱あいの者帰り候時本

ひしき吹て一セイ也。大夫まくをあけて出るヲみて一<sub>一</sub>早笛二段メウきしやう。はや笛二も吹事有。

\*一<sub>一</sub>セイノ笛吹内ニさいミやうじ殿出ル見、ふたいノまん中時分へ来ル時ニ初段ヲ打かける。しやうきにこしをかけ候。□<sub>一</sub>エテ早笛□□吹とめなのり。時分ニ二段メヲ又打カケルモ。二段メノ打上カシラより／はや笛二成也

一 此一<sub>一</sub>セイイ初メさいミやうじ殿出ル。其時は

ツ、ミこひやいとてつ、ける。地斗打ている。

さてさいミやうぢとのぶたいノマンナカエ

きたる時分ニ初段ヲ打かけ見、しやう

ぎにこしおかけると時ニ大かた二段メニ

なり、さしとめ二段ノ大ツ、ミノカシラヲ

きいてそのま、ひしきはや笛吹へし。

▲ へはせう はノ序

一 へ初きう<sub>マ</sub>ナ<sub>マ</sub>のり。道行「しやくまくとある柴の戸に、此御経をとくしゆする、く」

ひしき次第。女出る。「おもへはいと、夜もすから、月もたへなる法ノ庭、風のはせを

やつたふらん、く」ひしき一セイ。女出る。「袖のほころひもはつかしや」くりニ成なり。

「こほりの衣、霜のはかま」序ノ舞。

▲ へとくさ

一 へ初男なのり。かミか、りハ初次第也。道行「月日程なく木曾路経て、そのはら山に付に」

\*「急候程にあふはかの宿に付て候。此あたりノ人の渡り候か」とうタイてひしき女次第。〔朝長の詞章を場所を誤つて写す〕  
けり、く」せりふ聞命。ひしき一セイ。「おんしゆの心とけて、ひとつきこしめされ候へ

よ」くり成也。「子おをもふ」序ノ舞。

▲ へともなか

一 〱初僧ノなノリ 道行在。せりふ聞合。ひしき女ノ次第也。「あふはかのしゆくにかへりけり、く」中人也。「うかふはかりのけしきかな、く」ひしかすして太このかしらうつあいたハ出羽ふかす。おろして笛ハ吹出す。「あらたツとのとふらひやな」爰にて大ゆり一返吹か能候。「御法おとかせ給へや、く」くり二成也。あと皆あいしらい也。

▲ 〱とうゑひ

一 〱初僧なのり。「笛太この音聞ゆるハ、いかなるものぞ、尋て来り候へ」さかりはにてなるを殿出る。打上る也。「さらしなごし路ノ月雪」舞有。しねんごしの舞と同前。あと呂。「おかさのうちにけんさん申、さてハかなふまし」かつこ在。後舞打上る也。

▲ 〱とをほく つくり者出る。

一 〱初僧次第。道行在。シテハ「なふなふあれなる御僧」と云て出る。「花の陰に、木かくれて見えさき、木かくれて見へすなりにけり」中人也。「此御経をとくしゆする、く」ひしき」  
一セイ。「春の夜の」序舞也。

十 ▲ 〱とうかんどち

一 〱初男ノなのり。「是お御目ニかけうするにて候、さらは御急御供申さうするにて候」ひしき一セイ。やかてろんき也。「おもしろや是もこちやうのゆめのうち、あそひたわふれふるとかや」舞のち吹上る。呂にて留る。くり二成也。「袖をつらねて玉衣の、さいくしつミ浮波の、さ、ら八はちうちつれて、百千鳥」かつこ在。舞にて一段とツてかつこになるも在。又かつこより舞にも在。大夫二とうへし。舞ノアト打あけす。

▲ 〱とをる

一 〱初僧ノなのり。道行在。「急候程に、是ハはやミやこ六条河原の院とや覽に付て候。

暫やすらい一見せハやと存候」ひしき一セイ。むすふ音取を吹也。「跡をもミセス  
なりにけり」中入有。「夢待かほの旅ねかな、く」ひしき出羽吹也。「ゆふふの袖」きうノ舞<sup>打</sup>る<sup>る</sup>。

▲ ちくふしま

一 初大臣次第。道行「山越ちかきしかの里、にほの浦に付にけり、く」せりふ聞合、ひしき  
一セイ也。「しら波の立帰り、我ハ此うミの、あるしそといひすて、又なミにいらせ」

(欠葉あり)

〔邯鄲〕

しんノ来序在。「多ひくわニも多ようニも、実此うへや在へき」かく在。

\*下か、りハ打上る。きやうか、りハそのマ、謡「月人男のまいなれハ」といふ時かけり在。／大夫ニとふへし。／  
このかけり かくハンシキニテフキ候ワ、カケリモハンシキヨク候。かくノ手 つくり物よりおりて呂の手不吹。

▲ かしわさき 女は二

一 初男次第。「まもらせたまへ神仏と、いのる心そ哀なる、く」僧出てなのり在。

「今日まんにて候程に、ほにうへ御供申さはやおもひ候」ひしきにて女ノ一セイ。むす  
ふ音取也。「乱心やくるふ乱」かけり在。「手ひやうし人にはやさせて、あふきをつ  
とり、なるハたきの水」くり成也。又舞ニもいろへニも在。大夫ニたつねへし。

▲ かすかりう神 少静かなるへし。後急か。

一 初僧次第。道行「三笠山、春日の里に付にけり、く」ひしき一セイ。むすふ音取又  
ゆりを吹也。シテセウ也。「かきけすやうにうせにけり、く」帰りを見合ひしき  
一ツ、僧ノ来序也。又相語も在。きやうけんにとふへし。「草も木も、仏たいとなるぞ

ふしきなる、く「ひしき出羽也。又今春方ニハ早笛ニも在。能々大夫ニとふへし。早笛なれハかるくと也。「はッ大りうわう」舞はたらき在。大夫ニとうへし。

甘▲ 「かけきよ

一 「初男女二人次第。皆々あしらひ斗也。

きりのまへに八嶋ニてのいくさ物語ヲまねび。追付きりのうたひニ成也。「あしき道はしとたのむへし、さらはよとまるゆくそとの、た、一こゑヲき、残す、これそおやこのかたみなる、く」

▲ 「たつた はの序 「御殿にいらせたまひけり、く」中入。「袖ヲかたしきふしにけり、く」ひしかす／出は也。

一 「初僧次第。道行在。「夜半にしんとうあきらかなり」と謡てくりニ「成」也。「きんしやうさいはひ」かくら有。

▲ 「たへま 序破急か

一 「初僧次第。道行。「二かミ山のふもとなる、たへまの寺に付にけり、く」せりふ聞合ひしき。「一こゑのさそはんや、西吹〔松 脱力〕の風ならん、く」く「り」ニ成也。「紫雲に乗てあかりけり」中入。「まのあたり、あらハれ□□〔給ふ〕ふしきさよ、く」ひしき出羽也。此心へ在。吹上候事不吹候也。「十こゑも一こゑぞ在かたや」舞有。神舞ノかへ／ハノ出／打上る。

▲ 「たまの井 置ツ、ミにてなのり在。

一 「初ひしきにて、しんの来序にてわき出る。口上候事。道行のすへに「しはらくことのやうをうか、ハはやとおもひ候」ひしき一セイ也。いつれのね取ニよらずつよき音取を吹へし。「さらはやかてともないきやう中へまいり候へし」くりニ成也。「ろくちにおくりつけ申さん、其程ハまたせおハしませ」かとまふり、僧来序出吹也。のち十セイにて大夫出る。「かのつりはりお待給ふ」

わたつミのミやぬしちさんせよ」早笛大へしを本にひしきにて吹也。あ□〔と〕なのり。「ふかくをそうし、とよひめ玉より、袖を返して、まひたもふ」僧の舞有。児の舞なり。打止る(右)ノ三段ナルべし(左)

「わたつミのミやぬし」はたらき有。又舞はたらきにもする。大夫二とうへし。はたらきつよく吹へし。

▲ いたう明寺

一 〱初僧ノ次第。「これやかハちなる、はしの里にも付にけり、く」せりふ聞合ひしき一セイ也。

「おなしわくうのかけにきて、おかむそたつとかりけり、く」くり二成也。

「霜くもりして失に□〔けり〕、しもくもりにうせにけり」かともふり僧ノ乱舞也。

\*いそきて出よと待給ふ」静なるはや笛打上す、「しやくひやうしハ」(右)

「なとやおそきせしら大夫、ほときやしやくひやうし小おもしも

\*「おもしろや」かく有。打あける。太こハなし「ツ、ミにかくらの夢ハ覚にケリ」きり也。やかく有。いそひて出よと待給ふ。いかにも静なる早笛有。打あけす

▲ いたむら

一 〱初僧ノ次第。道行「きよミつてらに付にけり、く」せりふ聞合ひしき一セイ。

むすふね取お吹也。「たむらたうののきもるや、月のむら戸をおし

あけて、内にいらせ給ひけり、なひちんにいらせ給ひけ□〔り〕」中入。

「まよはん月の夜とともに、此御経をとくしゆする、く」ひしき一セイ也。』

かけの音取にたかねお吹てゆり吹也。「せいさんとうようせり」はたらきいかにもつよく也。

▲ いたうせん

一 〱初僧男なのり。「のかひをさせ候、今日も又申付はやと存候」ひしき一セイ也。

「さほのさすても舞の袖、おりからなミのツ、ミの、ふかくにつれてお

もしろや」かく在。打止る。うきやかに吹へし。てなともたたくさん二吹へし。

## ▲ つたまかつら

- 一 つ初僧ノなのり。道行「初瀬川にも付にけり、く」。「やうく急候程に、初瀬川に付たるとおもひ候、しはらく是に人を待、名所おもたつねはやおもひ候」  
 ひしき一セイ。女出る。「くハしく語て聞せまひらせうするにて候」くりニ成也。「のり  
 のともしひあきらかに、なきかけいさや巾はん、く」ひしき一セイ。「つく  
 もかミ」かけりあり。

## ▲ つた、のり

- 一 つ初次第。道行「沖なミとほき小舟かな、く」大夫出る。下のたかねかこてのたかね  
 か能候。「やとり木の、ゆくかたしらす成にけり、く」中入。そと□つる。」

## (欠葉あり)

## [うとう]

「なくより外のことそなき」くりニ成也。「うとふ」かけり有。

## ▲ つうきふね

- 一 つ初僧なのり。道行在。せりふ「急候程に是ハはや宇治の里に付て候、心静に一  
 見せはやとおもひ候」ひしき一セイ。「猶々うきふねの御事くわしく御物語候へ」  
 くりニ成也。「うき立雲の跡もなく、ゆくかたしらす成にけり、く」中入。  
 「小宵ハ爰に経およミ、彼御跡おとふとかや、く」ひしき一セイ。「いさなひ行も  
 思ひしより、心も空に成はて、」かけり有。

## ▲ つの、ミヤ 序ノ序 後ノ舞は也。

一 〱初僧ノなのり。「爰に尋てミヤとところ、心もすめ□〔る〕夕部かな、くく〕ひしき女ノ次第。「あらさひしミヤ所、あらさひし此ミヤとところ」くりニ成也。「跡たちかくれ失にけり」中入。「かの御跡をとふとかや、くく〕ひしき一セイ。僧ノね取にゆり吹也。「月にと返すけしきかな」序舞。「の、ミヤのよすから、なつかしや」はの舞有。

▲ 〱お、やしろ

一 〱初大臣次第。道行有。せりふ聞合。ひしき一セイニノ句有。「扱も冬立けしきかな、くく〕□□□□」  
 「なおく当しやのいわれ、くわしく御物語候へ」くりニ成也。「三十八しやをくわんし□□  
 の地也、しやたんに入にけり、しやたんの内ニ入にけり」中入。相ノ者ハ次第  
 にて出る。ミコ出る。かくら在。入ハ「めてたしくく〕にてひしき出羽ノ一セイ。  
 きやうけんにとふへし。「しくる、そらもくもはれて」と比より謡。「やゆふの  
 ふかくハおもしろや」天女ノ舞有。<sup>三段か</sup>うち上る也。「返すくく〕もおもしろや」かく有。  
 うちあくる。「かいりうわうの出現かや」りうしん出て早笛有。かるくくと。  
 あとなのり。「けにありかたきめくミかな」はたらき有。又舞はたらきにも有／とうへし。

▲ 〱おひ松 序ノ心のりて又のらす心有也。序ノ序

一 〱初大臣次第。道行有。せりふ聞合ひしき一セイ。「神さひて失にけり、あと神さ  
 ひてうせにけり」中入。「神のつけおも待いたり、くく〕ひしき出羽也。「こゑもミ  
 ちたるありかたや」しんの序在。

▲ 〱おしほ はノ序カ。時により後はにも有之。

一 〱初次第男。道行「かミもましハるちりの世の、花や心にまかすらん、くく〕  
 ひしき一セイ。「よしなをもきとくお待いたり、くく〕ひしき一セイ。「花ミくるま、  
 くる、より月のはなよまたうよ」くりニ成也。「むかしかな」序ノマイ有。」

## ▲ 〱おふふ小町

一 〱初なのり。「只今せきてら辺小野の小町かたへと急候」ひしき一セイ。「高位にましハるといふ事、た、和歌のとくとかや、く」くりニ成也。「和光のひかり玉つしま、めくらす袖や波かへし」序の舞。又かけりの舞ニも有。なかけハかけりの舞能よし候。

四十▲ 〱くれは女 後ニ此内少静かなるへし。

一 〱初大臣次第。道行在。せりふ「あの松ハラにあたつてはたもの、おとの聞候、うちゑたつねはやと存候」ひしき一セイ。本の音取。「けにかしこしやよき君に、つかふる人か在中たや、く」くりニ成也。「よなかくとも待給へ」中入。「風もうさむくとの時、神のつけおも待てミン、く」ひしき出羽。「けにおりひめのかさしの袖」神舞也。打上る

## ▲ 〱くわうてひ

一 〱初しん来序有。口上候事。きやうけんにとふへし。「ふしきやか、ミのそのうちに、きしんのすかたうつりける」早笛在かるくくと。「ふしきやくもるそらは□〔れ〕て、きうちうひかりか、やきて、めいとうするこそおそろしけれ」静なる早笛有。打上る也あと吹て□す」  
た□たひ出る。口上あつてのち乱序也。「きしんのすかたハかくれもなし」舞はたらき。これ□□

## ▲ 〱花月

一 〱初次第。「おもひやるこそかなしけれ」かつこ在。舞よりかつこに成也。あと舞にてとめる。あとひしく。

## ▲ 〱山うは

一 〱初次第。道行「いと、都ハとおさかる、さかい川にも付にけり、く」なに(も)なく候。「舞をまふへしと、いふかと思れハそのま、かきけすやうに失にけり、く」中入有。

「鬼女かことはおたかへしと」たかね一ツ吹へし。さて「松風ともに吹笛の、く」と謡返也。

「曲水の、月にこゑすむみやまかな、くく」かたひしき一セイ也。「よし足引の山うはか、くく、山めぐりするそくるしき」くり二成也。舞有時ハ。「よしのはづせゆ花もミち、さらしなごしちの月雪舞布ツキユキノマフ。大夫にとふへし。「あし引の山めぐり」はたらき破序ノ急。

▲ 〱 やしま

一 〱 初僧次第。道行有。せりふ。「日の暮て候へハ、是なるあまのしおやに立より、一夜をあかさはやと思ひ候。」こてにていろ出し候。「ゆめはしさまし給ふなよ、くく」中入あり。』  
 「かさねて夢お待居たり、くく」ひしき一セイ。「夢物語申なり、くく」くり二成也。「やさけひの音しんとうせり」はたらき有。いかにもつよく。

▲ 〱 松風 静なるは也。 後ハの舞

一 〱 初なのり。今春方ハ次第也。「是なるあまのしおやに立寄、一夜おあかさはやと思ひ候」ひしき一セイ。山のはの音取能候。「立別れ」かけりの舞有。くらい観世静也。  
 「そなれ松のなつかしや」はの舞也。「せんかたなミたに、ふししつむ事そ、かなしき」ものきノ吹様。口伝。ツ、ミニツ三ツ程こいや合にて者きノ笛吹かけへし。

▲ 〱 松むし はの序

一 〱 初男なのり。「今日も来り候ハ、いかなるものと名お尋はやと存候」ひしき次第。「友なひて帰りけり、むしの音につれてかへりけり」中入。「よもすから、彼跡とふそありかたき、くく」ひしき一セイ。僧音取。「わすれんともそかし、あらなつかしのこゝろや」くり成也。「さかつきの、雪おめくらす花の袖」はの舞。打あけす。

▲ 〱 ふな弁慶 「た、一さしとす、むれハ」と云ところより下ノたかね少吹能候。「其時静は立あかり」と謡也。

一 〱初次第。道行有。「ゑほしひた、れの候、めされ候へ」「たちまふへくもあらん□〔身〕の、」

袖うちふるもハつかしや」いろへ在。「つたへきく」と謡出す。「た、たのめ」  
序ノ舞。「一門の月けいうんかんのことく、波にうかひて見へたるぞや」  
かるくくと早笛打ま。「心も乱て、前後おはうする、斗也」早□のはたらき也。打上る。

▲ 〱二人静 はの序

一 〱初かんぬしなのり。「とふく女共なつミ川へ出よと申候へ」ひしき一セイ。「しつかこ□〔せ〕んの舞お御舞在ぞ、皆々よりて御らん候へ」ものき有。「今みよしの、川の名の、なつミの女と思ふなよ」いろへ在。くり二成也。「しつやしつ」序舞也。

▲ 〱ふし太こ 序

一 〱初シンカノなのり。「古里よりゆかりなんとたつね来りて候ハ、此形見の物おつかハさはやと存候」\* ひしき女次第。「神ならぬ身おうらミ、かこちなけくそ哀成、くく」\*と云て「いまたれか有」トモ「御前二候」「ふしかゆかりの物二伝て 主□り候ハ、□給候へ、トモ「かしこまつて候」き、合ひしくへし也ものきしん也。「秋の風よりすさまじや」いろへ有。「よしなのうらミや、もとかしと太こうちたるや」かく有。うらミのかくにてくる心有也。おもしろからする事可ふ吹候。

五十 ▲ 〱ていか 序

一 〱初僧次第。道行在。「とふらい給ハ、猶、語りまいらせ候ハん」くり二成也。「道しはの、つゆの夜語よしそなき」下より吹むふゆり「いふかと思へて失にけり、く」中入。「とふらふゑんハありかたや、く」ひしかす呂ノこて返。つ、ミニツ三ツ程こい合にて吹出しとなる。「おもなの舞のありさまやな」序舞在。

▲ 〱天こ

一 〱初大臣ノなのり。「只今わうはくか私宅にと急候、いかに此屋の内にわうはく  
 在か」ひしき一セイ。「いきて有身ハ久かたの、く 天のツ、ミをうたふ  
 よ」くり成。「水とふくとして、なミゆふくたり」ひしき一セイ。「たむけ  
 ふかくハありかたや」かく有。

▲ 〱あさかほ

一 〱初僧ノなのり。道行有。「立かくれうせにけり、跡立かくれ失にけり」中入。「そのあさ  
 かほの色ふかき、花ノゆかりをたつねん、く」ひしき一セイ女。「又御身のまう  
 しようなんともくわしくかたりたもふへし」くり二成也。「あらおもしろの  
 ことハや、おもしろや」太こノ序ノ舞。」

▲ 〱あま 女は二

一 〱初次第。道行有。「此者お御待あつて、此所のいはれおくわしくたつね申候へし」  
 「かう御座あらふするにて候」ひしき一セイ。うつくしき音取ニゆりを吹へし。  
 「波の底にしつミけり、立なミのそこに入にけり」中入。「花のはちすの妙  
 経、色々の善なし給ふ、く」ひしき出羽也。「龍神けんくきやうあら有難  
 の、御経やな」マイ有。様々口伝。「朝暮のこんきやう」たかねノはねてしうけんのとめ也。

▲ 〱あつもり

一 〱初次第なのり。道行「こ、もとやすまうらの、一の谷にも付にけり、く」爰にて  
 下のたかね、をるたかねまで吹て待候。ワき「ふしきやなあの上野にあたつて、  
 笛ノ音の聞候」とうたハせ候也。「此所に相待、いか成人そと尋はやと存候」ひしき女  
 次第。「其名ハ我といひ捨て、かへるも見へす成にけり、く」中入。「あつものりの、

ほたひお猶も弔はん、くく」ひしき一セイ。僧ノね取也。「とてもさんけの物語、  
よすからいさや申さん、くく」くりニ成也。「ひやうしをそろへこゑお上」舞僧ノかゝり也。

▲ ㄱ なたか 』

一 ㄱ 初男なのり。「今日も山ふしの御とをりあらハこなたへ申候へ」「かしこまつて候」  
ひしき山ふし次第也。「八まんの御たくせんかと思へハ、かたしけなくそおほゆる」  
くりニ成也。「とてももの御事ニ、せんたち一さし御舞候へ」「なるハたきの水」大小舞。打上す。  
舞の手いかにもミしかく吹也。二段めにのたる手さたまりたる也。「のかれたる心ちして」。  
めと。

▲ ㄱ あこき

一 ㄱ 初僧次第。道行有。せりふ「いそき候程に、此所にいせの国あこきか浦と申けに  
候、しはらく一見せはやと存候」ひしき一セイ。むすふ音取にゆりを吹也。「きこへし  
斗りにて、あとハかもなく失にけり、くく」中入。「つゐにひかりハくからし、くく」  
ひしき僧ノ出羽。「なおしうしんのあみおかん」かけり。いかにもなかくかゝるこゝろへ  
あるへし。あみ引まねをする也。「又なミのそこたかねおさへてに入にけり」トめ。

▲ ㄱ あしかり

一 ㄱ 初女男次第。道行有。「あらうれしや、さらハかのものをまちて見うするにて候」ひしき  
一セイ。「難波成、ミつとハいはしかゝる身に、我たにしらぬ、おもハすれ」かけり有。  
「目出度折にて候程に、某おしやくにまいらふするにて候」くりニ成也。』  
「今ハ恨もなミの上、立舞袖のかさし哉」男舞有。打上る。

▲ ㄱ あおひの上

一 〱初大臣なのり。「今そより来る長浜の、あしけのこまにたつなゆり  
かけ」ひしき一セイ。「さらはやかてかひし申さうするにて候」「畏て候」  
大ゆり吹也。「一祈りこそいのつたれ」「なまぐさまんたはさらた」そとはたらき有。

▲ 〱さくら川 クセマイノマヘニタカねノ呂吹不可候。

一 〱初男なのり。「我が子の行へ尋んと、なくくまよひ出て行、く」  
がくへはいりよりひしき僧次第、道行有、せりふ「花をなかめうするにて候、まうかうく御さ候」「上云て座なをりわきつれどいろく云て、「いそいでこなたへきくたれと申候へ」これをき〇ひしき吹へし也。」  
ひしき僧ノ次第。\*「やあくく彼物くるひにいつものことくすくいあミを持つて  
\*道行有 下ニハせりふナシニ「花ヲナガめうするにて候まづくかうく御さ候」「上云て」き、合ヒシキ一セイ有。大方ハせりふナシ也。それもわき衆ニよくくたつねへし也。  
いそひてこなたへ来れと申候へ」ひしき一セイ。むすふ音取。「花にやうとく  
雪の色、桜花、く」。かけり有。「花の本に帰らん事をハすれ水の  
ゆきお請たる花の袖」いろへ在。又舞ニも有。大夫にとふへし。「かゝり松風と同聲の音」くりニ成也。

六十▲ 〱さねもり

一 〱初さしこえ糸也。道行「かの国へ行りの、舟うかふも安(す)き道〇(と)かや、く」こての  
たかねにてあひしらい出す也。「姿ハ、まほろしと成て失にけり、く」中人也。』  
「かねをならして夜もすから、なむあ〇(み)たふく」ひしき出羽吹出す。

▲ 〱さひ行桜 はの序か

一 〱初男次第。道行有。「啼てなんたつきかたし」くりニ成也。「後夜の鐘の音」たかね一ツ  
吹へし。「響そそふ」大夫によりはたらく事も在。はたらき候へハ、笛後舞はに吹候事  
ならい也。「花にせいきやう月に影」。観世方ニハ爰にて舞也。爰うたいかけに依て  
いまも舞に吹也。「春の夜ノ」下より吹上る。序はねて。「春ノ夜ハあけにけりや、翁」「たかねをさへて」トめ。

## ▲ ㄱきわう

一 ㄱ初男なのり。「花のいしやうおかさらん、二人ともなひ立出る、く」ものき有。  
 「よろつを納めし君かためしにハ、ちまたにうたふ和哥のこゑ」序ノ舞有。又  
 そといるへにも有。くり二成也。「花をちらすや舞の袖、かへすくもお  
 もしろや」。はの舞也。いつもののはの舞ノあり所也。

## ▲ ㄱきよつね 置ツ、ミにハみんやうノ音取能候。

一 ㄱ初男次第。道行有。「まくらやこいをしらすらん、く」爰にて大夫まくにかゝる  
 を見合。たかねお吹出し二くさり吹て。大夫かんの節にてまくを上て出候やうに申合候。』  
 大夫により三くさり吹て出も在へし。大夫に申合かん用也。はしか、りにて  
 そと立、やすろう心有時、こいの手ノ心有へし。扱してはしらの本にくるを  
 見合、こいの手吹也。「うらめしかりけるちきりかな」大夫により少いろへ  
 ノ事も在へし。心かけかん用也。「けにも心ハ清経か、ふつくわ」たかねをさへて吹返す。トめ。

## ▲ ㄱゆや のりてかろし。置ツ、ミおとす音取也。観世舞はやし。

一 ㄱ初なのり。「ゆや来てあらハこなたへ申候へ」「畏て候」ひしき女次第。うつくしく。  
 「なにと御たうさなどをもあそはさぬそ」くり二成也。「いかにゆや一さし  
 舞候へ」「ふかき情を人やしる」マイ。「ちるをおしまぬ人やある」たんしやく  
 の段在。きさミニツ三ツ程うたせて吹出候。「それハこしち我ハ又」とめ。

## ▲ ㄱゆふかほ 序

一 ㄱ初なのり。道行在。「女ノうたお吟するこゑの聞候、立より尋ねはよと思ひ候」ひしかすして。  
 其さより下のたかねを吹出す。大夫はやまくを上出る時ハ、呂ノこて能候。いまた大夫まくきハに出候  
 ハ、下ノたかね吹出しこてへおとして吹もの也。いまた出てす候ハ、下ノたかねをミな一返吹也。「山

のはの」とうたわせ候也。「御跡を、及ひなきミも弔はん」くりニ成也。「ありつる女も、かきけすやうにうせにけり、く」中入。「法花とくしゆ□こゑたへす、とふらふのりそ誠成、く」

(欠葉あり)

〔江口〕

中入。「うたふ舟あそび、月に見へたるふしきさよ、く」ひしき一セイ。僧ノね取吹也。のち舟出る。次第ノ心也。「一ふしを、謡ていさやあそはん」くりニ成也。「おもしろや」序のまい有。「はく雲たかおしんこにうちツカガヒササキのりて」トめ。

▲ ひかき

一 初僧初メ作り物出ル也ノなりのり。道行ハなし。「水をくミて来り候、けふも来り候ハ、いかなるもの

そと名を尋はやと存候」ひしき老女次第。「我跡とひてたひ給へと、夕ま暮して

失にけり、く」中入有。「かけに庵りのともしひの、ほのかにミゆるふしき

さよ、く」ひしき一セイ。「袂ひしく不可候 尤一セイノみへも不可吹候を月や上るらん」くりニ成也。「ひかきの女

の身のはてお」序舞也。老女ノ舞也。いかにもうつくしく吹也。手などもさたまりたり。

▲ ひたちおひ (別曲の記述が混入か)

一 初かんぬしなのり。「おのくへ其よしあひふれ候へ」「畏て候」。ひしき次第。「なむゆ

ふれいしやうとうしやうかくしゆつりしやうしママこんせうほたい」ひしかす

一セイ。つくりもの出る。「あらゑんふこいしや」。かけり有。

▲ もみちかり

一 初女次第。道行「よものこすへとなかめて、しはらくやすミ給へや」きやうけん出て

おんなどもをなおしてひしき一セイ。むすふ音取吹也。少くらいはやし。「人ノこゝろさし、なさげに過たる事ハな□〔し〕、さらハ一つたへうするにて候」くりニ成也。「たへすこうよう」序ノ舞。「ゆめはしきましたもふなよ、く」かへるを見合ひしき一ツ吹さうの乱舞也。「まなこハ日月、をもてをむくへき、やうそなき」出羽はたらき。又舞はたらきニも有。能々大夫ニとへし。「たちまち鬼神タカウチハカを」トめ。

▲ ㄣもり久

ㄣ初もり久なりのり。「さらハ其夢のやうを御前にてまつすくに申上られ候へ」くりニ成也。「人の国まで日ノ本の、もろこしか原も此所る」男舞打上。「退出たがねしけるもり久（右くしけん左）」

▲ ㄣせかひ

ㄣ初山伏次第。道行有。「大しやうのいりきを、いよくあんしつらねたり」くりニ成也。

「わしのお山のくもやかすミも、嵐とともに失にけり、く」かへるを見合ひしき一ツ吹て乱舞にて布にきやうけん出る。「そのふん心へ候へ、く」といふて帰る。かへるをミ合。ひしき

一セイ吹出す。一セイのうちにくるま出る。やかて僧てう出る。「きもたましいをくらまかす、こハそもなにのゆへやらん、く」静かなる早笛打上有。あと吹そらす。あくせうして面也。静かなるへし。「是をふとうと名付たり」。はたらき有。

「ミさきおはらつておハします」舞はたらき有。「こくうにのこつて□□〔すか〕たハ」トめ。』

▲ ㄣせいぐわん寺序

ㄣ初僧ノ次第。道行有。「ひかりとともに失にけり、く」中入。「かねうちならしたうおんに、なむあミたふつミた如來」ひしき。かつらむきノ出羽吹也。「さながら爰もこくらく

世界に、生れけるかと有難さよ」くりニ成也。「ふツちをなせる、こゝろかな」太こ（序）ノ舞。つよくうつしく吹也。手同前口伝。

## ▲ ㄨせきてら小町

- 一 ㄨ初僧次第。「いなんとそ思ふはつかしや」くり二成也。「ほしまつるくれたけの」児ノ舞有。「狂人こそはしり候へ、も、とせハ」序ノ舞有。ちこノ舞也。くらい破也。三段まふ也。きやうか、りハ児ノ舞なく候。いろへに□す事有。きやうか、り「も、とせハ」の所。いろへノ舞也。くらい序ノ破。いろへノ吹出し下のゆりより吹出也。舞二なす時松風ノことくゆりか、りにするやう□してひきちかへゆりか、り候ハすしてすぐニ舞になすならい也。口伝。手なとみちかき手能候。

八十 ▲ ㄨせつしやう石 つくり物出る。

- 一 ㄨ初僧ノ次第。道行有。「たまものまへノ事、ねん比ニ御物語候へ」くり二成也。「石にかくれうせにけりや、いしにかくれ失にけり」中入。「木石心なしとハ申□〔せ〕」とも、仏体真女ノせんしんとなさん、せしゆせよ」ひしかす僧ノ出羽吹也。「あらわれ出たり□〔お〕」そろしや」大ゆり少吹也。

## ▲ ㄨせんしゆ

- 一 ㄨ初僧ノのり。「両事にて候程に、罷出重平卿を慰め申さはやと存候」ひしき女次第。「らうゑいしてそかなへてけり」くり二成也。又いろへもする也。とうへし。「わすれめや」序ノ舞也。

## ▲ ㄨつねまさ

- 一 ㄨ初僧なのり。道行。「きせんのみちもあまねしや、く」たかね一返吹かけてシテ出る。心かけ口伝有之。「あら名残しのやゆふやな」はたらき少有。

## ▲ ㄨちねんこし

一 へ初けやうけん出て口伝有。雲居寺ノ者ふかくあひしらいなし。ちねんこし

出る。ゑほしをさせる。あいしらい有。「いやなにのつれなふ候へき」「しかから

さきの一松、つれなき人ノこゝろかな」舞有。かゝりはかゝり也。三段まふ。

吹上呂にてとむる也。「とてももの御事ニ、かつこをうつつて御見せ候へ」

本よりツ、ミハ、なミノおと」かつこ有。又舞にて一段とりてかつこになすも

在。よくく大夫ニとうへし。舞打上る。

▲ へけんしくやう 』

(欠葉あり)

▲ ひむろ

一初大臣次第。道行有。「此所の人ヲ待、ひむろのいわれくわしく尋はやと思ひ候」ひしき一セイ。\*ノチニ呂カスリ／タカネ／中ノたカ□三ツ吹／也

「あらてハ、いかてかのこる雪ならん、くくくりニ成也。「むろのうちに入にけり、ひむろのうちに入にけり」中入。見合候てひしき。僧ノ乱序。きやうけん舞ルニ合以下學識□ヲ(左)見合ひしき出は。「舞の袖こそゆるくなれ」天女ノ舞有。打上る(右)

「ひむろ神風、あらさむや、ひやゝかや」舞はたらき有。

▲一弓八幡 初大臣次第。道行有。せりふ。「急候間、八幡山ニ付て候、心静ニしんはいを申さふ

するにて候」ひしき一セイ。「ヨヲおサメシカタリナヲく申候へ」クリ。「ウタカウナトテ、カ

キケすヤウにウセニケリ」中入。「ケにアラタナル奇特哉、く」ひしき出羽。「返すく

も千代のこへ、くウタフトカヤ」キウノ舞。打上る。

▲一ようきひ 初次第。道行有。「ウイノ曲、く、そそろにぬる、袂かな」ソトカ

ケリアリ。「アハレ小帳の舞成らん」いろへ有候へしクリに成。「ウイノ曲」マイ序。

▲一はく楽天 初わきなりの。道行有。せりふ「小船一そうウカヘリ、かれを待て尋はやと存候」ひしき一セイ。「あしはらの国もうこかし万代までに」大夫入ヲミ合、ひしき乱序有。あいの入ミ合ひしき出羽。「なミのツ、ミのかいせい楽」しんの序。

▲にし木々 初僧次第有。道行□〔有〕。「ミちのくの、けふの里ニも着にけり、く」ひしき女ノ次第。「夜もすから、こゑふつじをやなしぬらん、く」ひしか□〔す〕僧の□出羽。「雪ヲめくらす舞の袖かな、く」はの舞打上る。』

▲ほとけのはら 初僧次第。道行有。「ほとけの御前ノいわれくわしく御物語候へ」くり也。「さうとうのうちに入にけり、く」中□〔入〕。「かねあとうそありかたき、く」ひしき一セイ。「草木もなひくけしきかな」序ノ舞有。

▲吉野静か 初なのり。「いそきとをりおわすれけり」いろへ有。「しつやしつ」序ノ舞也。

▲頼正 初僧なのり。道行有。比てロンキ也。「ゆふれいと、なのりもあへす失にけり、く」中入有。「夢ノちきりをまたふよ、く」ひしき一セイ。「頼正か、仏果をゑんそ有かたき」くり也。あとミなあしらへ也。

百▲なにハ 初大臣次第。道行有。せりふ聞合ひしき一セイ。本ノ音取を吹へし。「けに道ひろき納なれ、く」くりニ成也。「下ふしして待たまへ、花ノ下ふしに待ちたまへ」かとまふり僧ノ乱序也。「かなてして」ひしき一セイ也。「あそひたハふれ、色々のふかくハ、おもしろや」天女ノ舞。天女なき時ハ舞なし。「かむこ若生、なにハのとりも、お〔と〕ろかぬ御代なり、ありかたや」神舞さう。今春方ハかく也。打上る。

▲くらま天工 初きく僧なりの。「大そうしやうかたにをわけて、雲をふんてとんて行、たつき〔雲〕をふんてとんて行」かとまふり有。のち一セイにてシやな王出る。「花やかなりける出立かな」大へしミ有。打上る天工たおしハおひた、しや」はやしはたらき也。

▲やうろう 初大臣次第。道行有。せりふ聞合ひしき一セイ。「なかれのすへの我等まで、ゆたかにすめるうれしさよ、く」くりニ成。「おんかくきこへ花ふり□（ぬ）、是た、こと、おもハれす、く」かとまほり有。のちひしき出羽。「たきつ心をさましつ、しよ□□〔てん〕らいきやうの、やうかうかな」神舞有。きうの舞 打上す。

▲松の山か、ミ 初なりの。「めんほくか、ミなるらん」はや笛有。一たんきう□ 打上る。「つミとかよ」舞働在之候。

▲せミ丸 さか、ミとも云。初女ノ次第。「ふしまろひてそなき給ふ、く」ひしき一セイ。さうの音取。「是皆しゆんきやくのニツ也、おもしろや」かけり有。「せきあへぬ御なミた、たかひニ袖やしほるらん」くりニ成也。

▲七騎おち 初男次第。受より出立候上甲合へしとひたつ斗に思ひ子の、わかれハあハれなりけり、く」かたひしきニてはやく一セイ。「心嬉しキシゆゑんかな」「いかにさねひら、か程めてたきおりな□□〔れハ〕、一さし御まい、舞下」「畏候、心ろうれしきしゆゑんかな」男舞也。打上る。

▲かも 初大臣次第。道行有。せりふ聞合ひしき一セイ。「神かくれに失にケリ、く」中入。大夫入るヲ見合、門まふりまやうけんニてかんぬし出る。「ミなく、そうとめたち出られ候へく」ニてさかりはニてそうとめ出て、シカく云。打上る「ミタウヘイツカ」ニ平カリハ打上るいさみたり、とミかれりやくニにてしやきり□（ニ）てそうとめかへる。カンぬし入ル時其ま、ひしき出は吹也。

いせて□□候ナチ

「さうかうしやうこん、まのあたりに、有かたや」天女ノ舞打上る。三段まふ。とうへし左  
 「しんたいらいけんしたまへり」はや笛かるくくと。「あらありかたの御事や」舞  
 はたらき有。又す□□□□「はたらき」ニも有。とうへし。

▲くまさか 初僧次第。まなあひしらひ也。』  
 「夜ヲあかしくるふしきさよく」中入。「こゑ仏事ヲやなしぬらんく」ひしき出は。／又早笛ニも 又はたらきニも有。

▲夜うちそか 初次第。道行有。「ななく事こそあはれさよ、く」たん三郎  
 きやうたいかへる。はやツ、ミうつ。はやツ、ミのうち大ゆり吹。あいもの出る。  
 かへるヲ見合ひしき一セイ。四人出ではしか、りにて「ときヲツくてさわかける」ト言りツ、ミかしらヲ打甲ハヤ笛ノ成歎  
 こハなく候。「からとのわきへそ待かけケル」かけり有。

▲園城寺 かねひきとも云。初なのり。道行有。そのまゝひしき一セイ。「水  
 うみのなミもたうやうせり」はや笛少かるくくと。「三井寺のしゆらうに  
 ひき上たり、まのあたりなるきとくかな」舞はたらきあり。

十▲せうき 初なのり。道行有。「かたちハさなから山ひこの、こゑはかりして  
 失にけり、く」はや笛かるくくと打上る。

▲うのは 初大臣次第。道行有。せりふ聞合ひしき一セイあり。二ノ句あり。くせマイハなし。  
 「かいしやうにたつてうせにけり、く」あひハつねのことし。あひノウたひ有てひしきにて出は  
 「神のつけをも待て見ん、く」ひしき出は。「けにたへなれや、あらかたや」神マイ。□□ 打上る「はまの  
 まさこハへいくたり。舞有。吹とめ呂にてとむる。□伝。五段打上ル。

▲うかい 初次第。道行有。せりフ聞合ひしき一セイ。「此身の、なこりヲ  
シサライカにセン、く」中入。「なとかわうかまさるへき、く」「眞女ノ見出ぬらん」出ははたらき有（左）打上る。（右）  
きうの早笛有

▲はん女 初シカく。女サシコヘニテ出る。道行「袖の露、其ま、きへぬ身そつら□「き」、く」  
ひしき男次第。「我宿願の子細あれと（は）是よりすくにた、すへまいら□する  
にて候 皆々参□「候へ」」ひしき一セイ。むすふ音取也。女出る。「しるしのなかるへき、  
きんしやうさいはい」かけり有。「さひしき枕して、ねやの月をながめん、く」くり。  
「絵にかける」序ノマイ有。

▲かねひら 初僧ノ次第。道行有。せりフ聞合ひしき一セイ。僧出る。「粟津にはやく  
付ニケリ、く」中入。「なきあと猶も巾はん、く」ひしき一セイ。のちシテかねひら「我ヲ  
又かの岸ニわたしてたはせたまへや」くり成也。あとあひしらひ也。

▲ふしと 初男次第。道行有。「セリフ聞合ひしき一セイ「先我やに帰候へ」中入。「三かいふたくしう」ひしき  
一セイ。あとあひしらい也。

▲ぬへ くわ 初僧次第。道行有。せりフ「津の国あしやの里ニ付て候、日暮候テ  
候程、やとをからハやと思ひ候」ひしき一セイ。むすふ音取にて「其時様  
くわしくカタリ候へ」くり。「おそろしやすさましや、あらおそろしやすさま  
しや」中入。「御経ヲとくしゆする、く」ひしき出は。「おとつれケレハ大臣とりあへ  
ス」はたらき有。

▲かうう 初次第。道行有。せりフ聞合ひしき一セイ。「かううカゆふれイあらハれ  
たり、あととふらいてたひ給へ、く」中入。「コヘヲアケ」「一セイゆふせい（二切有情）セツかい三かいふた

あくしゆ」ひしき出はアリ。「あらくるしのくけんやな」まいはたらき有。』

▲小袖そか 初次第。道行ハなし。「能々ものをあんするに」くり。「時宗と共に祝言の、うたふ声」\*男マイ。あとうたい出ス。

\*ト言テ「雪ヲ見くらす舞のかさし」せりふ少あつて又「ゆきをめくらす舞のかさし」トうたひ／かへす也／爰ニ而おと／こ舞ヒ／シキテ／かゝるはし弁慶 初弁慶ナノリ。「待居たりく」はヤツ、ミニてきやうけん出る。きやうけん 帰る時ひしき一セイ。「待居たり、く」ひしき一セイ。かけりも有。とうへし。

▲花かた見 初メノなのり不可吹候。シテハうたいかけにて出ル。「いだきてさとにかへりける、く」中人シテ かくやへはいりたるおミ合、ひしきおとこノ次第。道行ノやうなるも有。そのすへに「みゆきのくるまはやめん、く」ト言てわき衆皆々座えなせる。そのうたい過てもせりふなし也。そこおミ合うたい過てから少相おき床えなせる時分ニひしぐべし。さて一セイ吹たす也。「われおもともニつれてゆけ」ト言てかけり有也。のちに「みさきおはらふたもとかな」ト言ていろへニ成。又舞ニもする也。大夫ニとふべし。さて又初メノ一セイノ所、居前ニせりふ言事も有げに候。

大かたハなし也。ゆふ時ハ「みゆきのくるまはやめん、く」ト言てそのま、「皆々くぶ仕候へ」とわきせりふ言よしニ候。大かたハせりふな□よしニて候。市右衛門吹申候時もせりふハ無ニて候。わきハ新之丞被致候。

上の方

下の方